

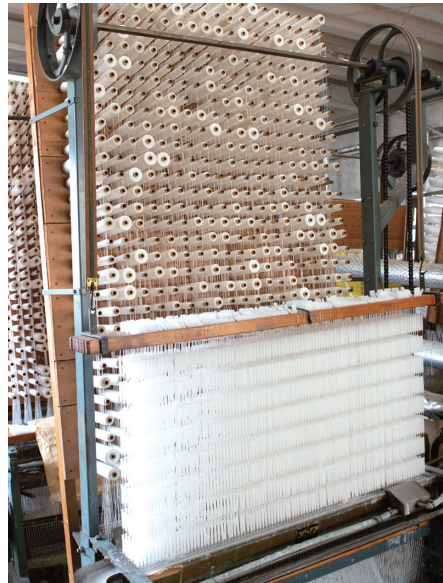
私たちの**伊奈町**を紹介します ヒトモノコト

ポテンシャルの高さを活かした“町の活用法”に期待

町田 伸吉さん
町田ローソク株式会社 代表取締役会長

キラキラTown **伊奈**

工業団地の造成は製造業者のビッグチャンスに



父の独立を機に会社員を辞めて伊奈町で創業。35年ほど前から、町北部に工業団地の造成が始まったことは、製造業を営む者としてはビッグチャンスでした。会社のイメージアップも図れるし、専用地のため振動や匂い、音などのクレームもなく安心して操業できます。私だけでなく、この団地が造成され、町の工業関係は大きく発展しました。

また、商工会では商工フェアとB級グルメ大会を合体させた「商工フェスティバル」を5年前から開催。もっと町内の商工業者を町内外の人に宣伝しようと、商工会員が出店するなどにぎやかなイベントに発展しています。みんなが手を携えて「人」と「人」をつなぐ。これも伊奈町の町民性だと思います。



45年前、伊奈町で「町田ローソク株式会社」を創業。アロマやブライダル用、神仏用まで、キャンドル全般の製造を行っています。一方、長年、商工会活動に携わり、6年前から商工会会長となって地域活動に尽力しています。

豊かな自然や高い利便性 子育てにも最高の場所

伊奈町に来た当初は、夜になると真っ暗。東京出身の私の遊び場はそれまで、新宿や銀座でしたから正直、寂しかったですね(笑)。当然、子育ても伊奈町でした。小川や雑木林など自然環境が豊かな伊奈町は、子育て環境としては最高の場所。子どもたちは片道40分かけて小学校に通い、足腰も鍛えられました。

こうした緑の多い伊奈町に最近はカフェやパン屋、ケーキ屋など個人経営のおしゃれな店が増えてきました。都心から1時間というアクセスの良さ、豊かな自然環境の中に点在するこだわりのお店…伊奈町はとてもポテンシャルの高い町です。例えばシェアオフィスを作るなど、伊奈町にある資源やアドバンテージを上手に活用することが、今後の伊奈町の発展につながっていくと思います。



町田さんが製造する、バラの香りがほんのり漂うアロマキャンドルなどはバラのまち・伊奈町にふさわしいろうそく。ふるさと納税の返礼品にもなっています。



盆栽作家として盆栽の奥深さ、新たな魅力を世界へ

木村 正彦さん
盆栽作家



盆栽のプロ作家展で数々の賞を受賞。2006年に黄綬褒章受章。盆栽作家として腕を振るう一方、一つの盆栽に自然を題材とした景色を再現する「創作盆栽」という独創的な世界を確立。世界各国から講師として招かれ、盆栽の奥深い世界を広めています。

40年前に転居、 伊奈町が いつのまにか「都」に

元々は旧大宮市の盆栽町で生まれ育ちました。15歳から11年間、修業して独立。庭園を造ったり、盆栽を育てたりするための広い場所を探していて、知人に紹介されたのが伊奈町でした。当時は周囲に何もなくて、自然豊かで虫も飛んでいました。盆栽を育てるにはうってつけの場所でしたね。

それから40年以上が経ち、町はすっかり様変わりをしました。が、「住めば都」の言葉通り、自分にとって伊奈町はいつのまにか都になっています。



キラキラTown **伊奈**

心が引き込まれるような 自然の景を盆栽で再現

日本固有の文化である盆栽に新風を吹き込むのは大冒険でした。その点、私は運が良かった。デビュー作となった「登龍の舞」で内閣総理大臣賞をいただき、多くの人に認められて「創作盆栽」という独自の世界を確立できました。私が手本としているのは、自然の素晴らしさです。世界各国に講師として招かれた時、気になった場所は必ず訪れます。例えば、アマゾンのジャングルのような、中国の景勝地のような、奥深い世界を盆栽で再現することで、見る人の「心の目」が引き込まれていく。そんな作品づくりを心がけています。

また、盆栽作家として一番大切にしているのは「命の尊さ」です。盆栽も生き物ですから、いい加減なことをすれば枯れてしまいます。一つひとつの盆栽と真摯に向き合うこと。これこそ、盆栽作家の真髄です。

こうした思いや技術を伝えるため、育てた弟子は国内外合わせて30人以上。これからの人たちには自分にしかない感性を発揮して、盆栽の新境地を切り拓いてほしいですね。



内閣総理大臣賞を受賞した「登龍の舞」。断崖絶壁に自生していた木から制作した作品です。圧倒的な存在感と自然の持つ強い生命力が見る者を魅了します。